

洞

外へ出れば光は目映く
私はといえば
何も見ず、うつむいたまま

混み合った電車の中は
女高生のはじけるような活気で
私はそれを哀しい音楽とブレンドする

手帳には我子の写真を挟み
ああ、影さえうなだれるほどに
何も見たくない、聞きたくもない・・・

働く愚鈍な者達は私を押し分け
私はその反力で動くだけで
どこへ行くのか分からずじまい

鼓膜は人のおしゃべりに傷つき
瞳は人の視線に穴を穿たれ
私は水死体の如く
ただただ流れゆくのみ

(1988.10.11)